



第49回 ジャパンウィーク2024年

フランス/コルマール Colmar



開催期間 2024年11月12日（火）～11月17日（日）

開催概要

開催期間	2024年11月12日（火）～11月17日（日）6日間
開催地	フランス共和国・コルマール市
主催	公益財団法人 国際親善協会
後援（予定）	アルザス日本研究センター（CEEJA）、アルザス・デスティネーション・ツーリズム、在ストラスブール日本国総領事館、国土交通省、文部科学省、フランス観光開発機構、コルマール市観光局、日本政府観光局（JNTO）、独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構（ジェトロ）、一般財団法人自治体国際化協会、一般財団法人地域伝統芸能活用センター、全国知事会、全国市長会、全国町村会、全国都道府県議会議長会、全国市議会議長会、全国町村議会議長会 助成（予定） 公益財団法人双日国際交流財団、公益財団法人 JKA
後援（予定）	日本航空株式会社、損害保険ジャパン株式会社、株式会社みずほ銀行、株式会社日本旅行、株式会社ミキ・ツーリスト、株式会社ブランドゥ・ジャパン
日本側参加予定者数	700人
コルマール市側参加・見学予定者	10,000人



公益財団法人 国際親善協会
会長 鶴保 庸介

新たな国際交流のはじまり

親日家が多いフランスの中でも特に日本と深い縁を持ち、相互交流に積極的な地域でドイツ、スイスと国境を接する北東部・アルザス地方に属するコルマールは2024年日本との交流開始から160周年の節目となります。日本とこれほど深い結び付きを持つフランスの地方は他にはありません。

ゴッホやモネら多くの芸術家に影響を与えた日本美術ブーム「ジャポニスム」の到来より早く、和柄の図案を当地にもたらしていたこの地で私どもは微力ながら市民レベルの交流を通じて、互いの文化を理解し、両国間の文化交流、友好関係の促進を図るとともに国際交流の意義とその重要性を認識し、新しい時代に向けた国際交流を再開いたします。フランス・コルマールで皆様にお会いできることを楽しみにしております。

イベント日程

	11/12 (火)	11/13 (水)	11/14 (木)	11/15 (金)	11/16 (土)	11/17 (日)
オープニングフェスティバル		○				
ウェルカムレセプション		○				
舞台公演	○		△	○	○	○
展示・実演	○	○	○	○	○	○
茶道	×	○	×	○	○	○
交流プログラム		○	○	○		
観光物産商談会	○					

2024年6月20日現在

プログラム案内

オープニングフェスティバル・ウェルカムレセプション

日時：11/13 (水)

会場：CATHERINETTE(予定)／Eglise protestante St-Matthieu(予定)

ジャパンウィークの幕開けとなるイベントとして日本・フランス双方の参加者によるオープニングイベントを開催。

このオープニングフェスティバルでコルマル市民にジャパンウィークの開幕をアピールします。

その後、コルマル市主催によるジャパンウィーク参加者への歓迎の意を込めたウェルカムレセプションを行います。



舞台公演

日時：11/12 (火)・14 (木)～17 (日)

会場：Cercle Catholique Saint-Martin (予定)

日本の伝統的な能、雅楽、文楽、地域民謡、和太鼓、琴、三味線、尺八、着物、郷土歌舞伎、大正琴、日本舞踊からバレエ、ダンス、よさこい、人形劇、演劇等を舞台公演により紹介します。



展示・実演・ワークショップ

日時：11/12 (火)～11/17 (日)

会場：Koifhus (予定)

日本に息づく伝統と現代文化を伝える。

絵画、書画、伝統工芸、陶芸、彫刻、手芸、押し花、ちぎり絵、折り紙、染物、版画等の芸術、日本料理、ファッション等々の伝統文化から現代生活文化、そして華道・香道の作法等をデモンストレーション、ワークショップにより紹介します。



プログラム案内

茶道

日時：11/12（火）～11/17（日）

会場：Koifhus（予定）

茶道実演を市民の皆様にご体験していただくとともに、茶道の歴史・作法など日本に息づく伝統と現代文化を伝えます。



交流プログラム

日時：11/13（水）～11/15（金）

学校・老人クラブ訪問交流

現地学校、老人クラブを訪問し、ワークショップなどを通じて交流を深めることができるプログラムを実施します。

音楽交流

フランスと日本相互の音楽演奏や合同演奏を通じた音楽交流を実施します。

民族舞踊交流

フランスの伝統舞踊グループと日本の伝統地域民謡グループとの舞踊交流を実施します。

料理交流

日本料理とフランス料理の相互の料理交流を実施します。



観光物産展

日時：11/12（火）

会場：Novotel Paris Centre Tour Eiffel（パリ）予定

現地学校、老人クラブを訪問し、ワークショップなどを通じて交流を深めることができるプログラムを実施します。

各地方自治体より、日本の観光地の魅力や郷土の物産などを紹介する商談会を実施します。各地域の魅力を通じて日本の美しさや伝統文化をフランスの人々にアピールします。



会場案内



Eglise protestante St-Matthieu

(ウェルカムレセプション)

1292年に身廊が建てられた旧フランススコ会教会。1991年から1997年にかけて修復が行われた歴史的建造物で、アルザスで最も美しいゴシック建築の一つとされています。また、18世紀初頭の聖書の場面を描いた50点の絵画と木彫りの天井、素晴らしいステンドグラスの窓も魅力となっています。素晴らしい音響効果を誇る聖マタイ教会では、毎年コルマル国際音楽祭のコンサートが開催されます。



CATHERINETTE

(オープニングフェスティバル/カクテルレセプション)

アンマージュヴィア出身のドミニコ会修道女たちは、1310年にコルマルに修道院を設立しました。建物は15世紀から18世紀にかけて改造および再建されます。現在、この建物には学校、パーティー会場、観光局の管理本部が入っています。



Cercle Catholique Saint-Martin

(舞台公演)

1895年、建築家フランソワ・グザビエ・クレイヤーが協会の新しい建物を完成させました。全長72メートルのこの巨大な建物は、ネオ・ロマネスク様式とゴシック様式を組み合わせています。コルマルの中心部にあり、大きなステージ・設備も整っており、冬には暖房も完備されています。カンファレンスや結婚式など、様々なイベントでコルマル市民に利用されているホールです。



Koifhus

(展示・実演・ワークショップ/茶道)

旧税関は1480年に建てられたゴシック様式とルネッサンス様式の美しい建物です。現在はレストランのほか、一時的な展示会や見本市が開催されています。



Novotel Paris Centre Tour Eiffel

(観光物産展)

各地方自治体より、その地域の観光地や郷土の物産などを紹介する商談会を実施します。各地域の魅力を通じて日本の美しさや伝統文化をフランスの人々にアピールします。

開催地について



コルマール

コルマールは、ドイツ国境に近いフランス北東部のグランテスト地域圏（アルザス、シャンパーニュ・アルデンヌ、ロレーヌの3地方を統合）にある町です。かつてはドイツ領やフランス領になるなど、複雑な歴史によりドイツ風の街並が広がっています。プチット・ヴニーズ「小さなヴェネチア」という名で親しまれているこの街の旧市街は、運河沿いに中世ルネサンス初期に建てられたハーフティンバー様式（木造建築）のカラフルな民家が建ち並んでいます。クリスマス・マーケットの時期には、愛らしい装飾と幻想的な装飾に彩られ絵本の世界に迷い込んだかのようなメルヘンチックな雰囲気が漂います。この美しい街並みは、映画の舞台のモデルになったと言われています。

コルマールの見どころ



プチット・ヴニーズ

「小さなヴェネチア」という名で親しまれているこの街の旧市街は、運河沿いにカラフルで可愛い木組みの民家が建ち並んでいます。石畳の通りの家々の窓辺には花が飾られ、かわいらしい雰囲気が、イタリアのヴェネスを彷彿とさせることから、プチット・ヴニーズと名付けられました。



ウンターリンデン美術館

13世紀のドミニコ会派修道院を改造した建物で2015年に改修工事完了後、アルザスで最も訪問者の多い美術館です。中世期末からルネサンス期までの彫刻や絵画が所蔵され、特に有名な作品はドイツ人画家グリューネヴァルトの傑作「イーゼンハイムの祭壇画」です。



プフィスタの家

三角屋根と出窓が特徴的な「プフィスタの家」。映画のモデルとなったとされている建物なんです。「プフィスタの家」はコルマールの街のほぼ中心にあり、16世紀に建てられた歴史ある建物です。



クリスマスマーケット

コルマールのクリスマスマーケットは、ストラスブールなどと比べると規模は小さいですが、街全体が華やかなイルミネーションで彩られ、アットホームな雰囲気が漂い訪れる人々を魅了します。小さな木の小屋が立ち並び、アルザス地方の伝統的な料理やスイーツ、手作りのクラフト品や温かいワインなど、買い物も楽しめます。

アルザス地方の見どころ



ストラスブール大聖堂

世界遺産に登録されているこのカトリックの大聖堂は、約 400 年の歳月をかけ、1439 年に完成されました。中世の建築物の中でも最高傑作の一つと言われ、幅が 112m、塔の高さは 142m で現在、教会としては世界第 6 位の高さです。「石のレース編み」と例えられる見事な彫刻が見所です。



プチットフランス

プチット フランスは、ストラスブールの旧市街南西端にある「小さなフランス」とよばれる一角。水辺にアルザス特有の木骨造の伝統的な建物が立ちロマンチックな風景が見られる場所で、町を囲むイル川を走る遊覧船から眺めることもできます。



リクヴィール

フランスの最も美しい村に登録されているリクヴィールは、城壁に囲まれ、村の目抜き通りを端から端まで歩いて 20 分程度という小さな村です。別名「ぶどう畑の真珠」と呼ばれ、アルザスワインの名産地としても有名です。



オー・ケニグスブール城

オー・ケニグスブール城はフランス北東部、アルザス地域圏のヴォージュ山脈に遺された 850 年もの歴史を持つ中世の古城です。標高 750m の山上からヴォージュ地方やアルザス平野の素晴らしい眺望も魅力となっています。



コルマール市・市長
エリック・シュトルマン

コルマールへの訪問を心から歓迎します。

2024 年にジャパンウィークをお迎えられることをコルマール市として、大変誇らしく思っています。

今年は日本とアルザスが関係を結んで 160 周年でもあります。

彫刻家バルトルディ（ニューヨークの自由の女神像設計者）の生誕の地でもあるコルマールは 2014 年より岐阜・高山市と姉妹都市関係を結ぶなど、これまでも日本と深い関係を築いてまいりました。当市はいくつもの日本企業の欧州拠点でもあります。欧州日本学研究所も所在し、この研究所は現在マンガ博物館を準備中です。また、市内には大変美しいアルザス建築の館、プフィスタの家がありますが、この家は宮崎駿アニメ「ハウルの動く城」に出てくる家としても有名です。

この一週間にわたる盛大なイベントによってコルマール市民は日本の文化の美しさと多様性を発見することでしょう。日本文化とアルザス文化の交流と融合の機会を与えてくださる主催者及び参加者の皆様方に心よりお礼申し上げます。



在ストラスブール日本国総領事
内田 浩行

日本・アルザス交流 160 周年にあたる 2024 年に、第 49 回ジャパンウィークがアルザス地方コルマールで開催されることを大変喜ばしく思います。アルザス地方は、ドイツとの国境に位置し、これまでドイツとフランスとの間を行き来した歴史的にも重要な地方で、小説「最後の授業」の舞台でもあります。日本との関係も深く、コルマール周辺を中心に多くの日本企業が進出しており、日本文化への関心も非常に高いところです。特に、コルマールは、ジブリ映画「ハウルの動く城」のモデルとなった伝統的な街並みや風景が残る可愛らしい街で、毎年多くの日本人が観光に訪れています。アルザス料理、アルザスワイン、ワイン街道の美しい村々もお薦めです。ジャパンウィークの機会に、少しでも多くの日本人の方に越し頂き、現地の方が普段見ることのできない様々な公演や展示、イベントを通じて、日本とアルザスとの間の文化交流が更に進むことを願っております。皆様のコルマールへのお越しを心よりお待ちしております。